

「主な取組」検証票

| | | | | |
|--------------|--|--------------------|-----|--|
| 施策展開 | 4-(1)-ウ | 国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備 | | |
| 施策 | ①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化 | | | |
| (施策の小項目) | ○交流拠点施設等の整備 | | | |
| 主な取組 | Jリーグ規格スタジアム整備事業 | 実施計画 記載頁 | 363 | |
| 対応する 主な課題 | ○国内外の各地域において、MICE誘致競争は年々拡大している中、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生しており、国際的な交流拠点施設の整備が必要である。加えて、案内板の多言語表示化をはじめとした外国人の受入環境整備にも取り組む必要がある。 | | | |

1 取組の概要(Plan)

| | | | | | | | |
|-------|---|------|------|------|------|---------------|----------|
| 取組内容 | Jリーグ規格のサッカースタジアムを整備し、沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する。 | | | | | | |
| 年度別計画 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29～ | 実施主体 |
| | 基本構想 | 基本計画 | 実施計画 | 基本設計 | 実施設計 | 平成32年 供用予定 | 県 市町村 |
| | 担当部課 文化観光スポーツ部 スポーツ振興課 | | | | | | |

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

| 平成28年度実績 | | | | |
|---------------------|--|-------|--|------|
| 事業名 | 予算 | 決算見込 | 活動内容 | 主な財源 |
| J1規格スタジアム整備基本計画策定業務 | 43,671 | 9,179 | J1規格スタジアムの整備については、県と那覇市で同様の整備構想を進めてきたが、県全体のサッカー振興やスポーツコンベンションの推進等に資することなどから、県が主体となって整備を行うこととし、基本計画策定に着手した。 | 県単等 |
| 活動指標名 | | | 計画値 | 実績値 |
| — | | | — | — |
| 推進状況 | 推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果 | | | |
| 大幅遅れ | J1規格スタジアムの整備については、県と那覇市で同様の整備構想を進めてきたが、県全体のサッカー振興やスポーツコンベンションの推進等に資することなどから、県が主体となって整備を行うこととし、基本計画策定に着手した。 | | | |

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

| 平成29年度計画 | | | |
|---------------------|--------|---|------|
| 事業名 | 当初予算 | 活動内容 | 主な財源 |
| J1規格スタジアム整備基本計画策定業務 | 30,912 | 基本計画策定業務については、整備手法やスタジアム周辺エリアの整備など、慎重な議論や新たな検討課題が出てきたことから、平成29年度に予算を繰り越し、引き続き検討を行う。 | 県単等 |

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

| 平成28年度の取組改善案 | 反映状況 |
|---|--|
| ・那覇市においても県と同様の整備構想が進められていることから、県と那覇市の役割や効果的な整備方法等について引き続き検討を行う。 | J1規格スタジアムの整備については、県と那覇市で同様の整備構想を進めてきたが、県全体のサッカー振興やスポーツコンベンションの推進等に資することなどから、県が主体となって整備を行うこととし、基本計画策定に着手した。 |

(4) 成果指標の達成状況

| 成果指標 | 基準値 | 現状値 | H29目標値 | 改善幅 | 全国の現状 |
|-------|--|-----|--------|-----|-------|
| — | — | — | — | — | — |
| 参考データ | 沖縄県の現状・推移 | | | 傾向 | 全国の現状 |
| — | — | — | — | — | — |
| 状況説明 | J1規格スタジアムの整備については、県と那覇市で同様の整備構想を進めてきたが、県全体のサッカー振興やスポーツコンベンションの推進等に資することなどから、県が主体となって整備を行うこととし、基本計画策定に着手した。 | | | | |

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

| |
|---|
| <p><u>○内部要因</u> J1規格スタジアムの整備については、県と那覇市で同様の整備構想を進めてきたが、県全体のサッカー振興やスポーツコンベンションの推進等に資することなどから、県が主体となって整備を行うこととし、基本計画策定に着手した。</p> <p><u>○外部環境の変化</u></p> |
|---|

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

| |
|--|
| J1規格スタジアムの整備については、県と那覇市で連携して取り組んでいく必要があることから、スタジアム整備のあり方や財政負担等について、引き続き協議を行う必要がある。 |
|--|

4 取組の改善案(Action)

| |
|---|
| J1規格スタジアムの整備については、県と那覇市で連携して取り組んでいく必要があることから、スタジアム整備のあり方や財政負担等について、引き続き協議を行う。 |
|---|

「主な取組」検証票

| | | | | |
|--------------|--|--------------------|-----|--|
| 施策展開 | 4-(1)-ウ | 国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備 | | |
| 施策 | ①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化 | | | |
| (施策の小項目) | ○交流拠点施設等の整備 | | | |
| 主な取組 | 「沖縄空手会館」の整備 | 実施計画 記載頁 | 363 | |
| 対応する 主な課題 | ○国内外の各地域において、MICE誘致競争が年々拡大している中、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生しており、国際的な交流拠点施設の整備が必要である。加えて、案内板の多言語表示化をはじめとした外国人の受入環境整備にも取り組む必要がある。 | | | |

1 取組の概要(Plan)

| | | | | | | | |
|-------|--|-------|----|------|----|-----|------|
| 取組内容 | 沖縄空手を独自の文化遺産として保存・継承・発展させるとともに、国際大会等の開催や研修生の受入体制の強化を図り、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するための拠点として、沖縄空手会館を建設する。 | | | | | | |
| 年度別計画 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29～ | 実施主体 |
| | 基本計画 | | | | | | 県 |
| | 測量・土質調査 | | | | | | |
| | 基本設計 | 実施設計 | | | | | |
| | | 建設工事等 | | 供用開始 | | | |
| | | | | | | | |
| 担当部課 | 文化観光スポーツ部 空手振興課 | | | | | | |

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

| 平成28年度実績 | | | | |
|------------|--|--------------------------|---|----------------|
| 事業名 | 予算 | 決算見込 | 活動内容 | 主な財源 |
| 沖縄空手会館建設事業 | 2,281,419 (1,106,046) | 2,054,927 (1,106,046) | 沖縄空手会館武道棟の工事で一部残工事はあるものの、建物は完成し供用開始した。展示資料の調査収集検討を行った。指定管理者の指定を行った。 | 一括交付金 (ソフト) |
| 活動指標名 | | | 計画値 | 実績値 |
| — | | | — | — |
| 推進状況 | 推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果 | | | |
| やや遅れ | 当初、平成27年度の供用開始を目指していたが、相続手続きのされていない共有地の購入等に不測の時間を要し、本体工事の着手が平成26年度末となったことから、平成27年度は、平成28年度供用開始を目標に取り組んだ。条例の整備、指定管理者の指定、関係機関との調整を進め、平成28年度に供用開始したが、一部外構工事等が残っている。 | | | |

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

| 平成29年度計画 | | | | |
|------------|----------------|---------------------------------|--|----------------|
| 事業名 | 当初予算 | 活動内容 | | 主な財源 |
| 沖縄空手会館建設事業 | 0 (266,112) | 供用開始したものの、一部残っている外構工事等を引き続き進める。 | | 一括交付金 (ソフト) |

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

| 平成28年度の取組改善案 | 反映状況 |
|---|---|
| ①工程の進捗を確認していく。 ②沖縄空手会館の指定管理者を選定する。 ③平成28年度中の供用開始を目指す。 | ①展示棟工事、武道棟工事、常設展及び企画展を完了させた。 ②管理運営については、指定管理者を指定した。 ③落成記念式典を開催した。 |

(4) 成果指標の達成状況

| 成果指標 | 基準値 | 現状値 | H28年度目標値 | 改善幅 | 全国の現状 |
|------------------|--|----------------|-------------------|-----|-------|
| — | — | — | — | — | — |
| 参考データ | 沖縄県の現状・推移 | | | 傾向 | 全国の現状 |
| 県外・海外からの空手関係者来訪数 | — | 80人 (H24年度) | 1,188人 (H28年度) | ↗ | — |
| 状況説明 | 県外・海外からの空手関係者来訪は、県主催の国際セミナー及び民間主催セミナー(県後援)の参加者数により確認した。今後は沖縄空手会館の供用開始(平成29年3月)に伴い、空手関係者(県外、海外)の来訪者動向が把握できることから、当該来訪者数も加えて実数の把握に努めたい。 | | | | |

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

| |
|--|
| <p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の建築工事は年度内に完了したが、当初予定より遅れがあったことから、現場調整の上購入を予定していた一部の備品購入が遅れた。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空手会館外構工事に一部、工事の遅れが生じている。 |
|--|

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・随時、工程の進捗を確認し、スケジュール管理を密に行う必要がある。 |
|---|

4 取組の改善案(Action)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・随時、工程の進捗を確認し、スケジュール管理を密に行う。 |
|--|

「主な取組」検証票

| | | | | |
|--------------|--|--------------------|-----|--|
| 施策展開 | 4-(1)-ウ | 国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備 | | |
| 施策 | ①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化 | | | |
| (施策の小項目) | ○交流拠点施設等の整備 | | | |
| 主な取組 | 世界水準の大規模MICE施設の整備 | 実施計画 記載頁 | 363 | |
| 対応する 主な課題 | ○国内外の各地域において、MICE誘致競争が年々拡大している中、特に海外市場における知名度の向上が課題となっている。また、資金的なインセンティブや沖縄ならではの体験等も含めた沖縄開催の魅力の創造とその発信も重要である。さらに、近年では、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生してきており、施設の収容能力も課題を抱えている。 | | | |

1 取組の概要(Plan)

| | | | | | | | |
|-------|--|------|------|----|----|--------------|------|
| 取組内容 | これまで、施設規模が原因で誘致が実現していなかった中～大型の国内・海外のMICE及びその参加者について沖縄での開催誘致を促進し、観光消費額の増加や入域観光客数の平準化に寄与することを目的に大型MICE施設を整備する。 | | | | | | |
| 年度別計画 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29～ | 実施主体 |
| | 調査・検討 | 基本設計 | 実施設計 | 工事 | | H29年 供用予定 | 県 |
| | | | | | | | |
| 担当部課 | 文化観光スポーツ部 観光整備課 | | | | | | |

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

| 平成28年度実績 | | | | |
|----------------|---|-----------------------|---|------|
| 事業名 | 予算 | 決算見込 | 活動内容 | 主な財源 |
| 大型MICE受入環境整備事業 | 7,957,269 (47,635) | 7,040,438 (47,613) | 建設予定地の一部用地を取得したほか、大型MICE施設整備基本計画を策定し、施設整備から運営に係る一連の事業者公募を実施した。 また、周辺のMICE関連施設を含めたゾーニング計画案である「MICEエリアまちづくりビジョン」を策定し、大型MICE施設の受入環境整備に係る住民説明会を実施した。 | 県単等 |
| 活動指標名 | | | 計画値 | 実績値 |
| — | | | — | — |
| 推進状況 | 推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果 | | | |
| 大幅遅れ | 当初予定の供用開始(平成29年)から遅れているため、大幅遅れとした。 しかし、利用者満足を得られる施設水準の実現と整備費用最適化に向け、有識者委員会を踏まえ、平成28年8月に「沖縄県大型MICE施設整備基本計画」を策定した。 また、周辺のMICE関連施設を含めたゾーニング計画案である「MICEエリアまちづくりビジョン」を策定し、庁内関係部局で構成する「大型MICE受入環境整備推進会議」、県及び地元町村等で構成する「大型MICEエリア振興に関する協議会」を設立し、大型MICE施設整備の受入環境整備に係る協働体制を構築した。 | | | |

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

| 平成29年度計画 | | | |
|----------------|-----------|--|------------|
| 事業名 | 当初予算 | 活動内容 | 主な財源 |
| 大型MICE受入環境整備事業 | 1,409,324 | 平成29年4月に、施設整備から施設運営までを一括して担う事業者を決定し、事業契約締結後に設計業務に着手する。 また、建設工事に着手するまでに必要な用地の取得を行う。 なお、MICEエリア周辺に宿泊施設及び商業施設を誘致するため、関係部局と連携し、港湾計画及び都市計画変更等の手続きに着手する。 | 一括交付金(ソフト) |

(3) これまでの改善案の反映状況

| 平成28年度 of 取組改善案 | 反映状況 |
|--|---|
| <p>①大型MICE施設の建設地が「中城湾港マリントウン地区」に決定し、施設の機能・規模も決定したことに伴い、建設地となる地元自治体との協働体制を構築するとともに、「沖縄県大型MICE施設整備運営事業アドバイザー業務」の中で策定する整備基本計画において、利用者満足を得られる施設水準の実現と整備費用最適化に向け、引き続き詳細に検討していく。</p> <p>②MICEエリア周辺に計画的に宿泊施設や商業施設が誘致できるよう、関係部局や地元自治体と連携を図りながら、「街づくりビジョン」を策定した上で、港湾計画や都市計画等の変更を目指す。</p> <p>③MICE関連人材の育成や、MICEの誘致戦略を盛り込んだ「沖縄MICE振興戦略(仮称)」を策定し、県、OCVB、運営事業者が一体となってMICE誘致に取り組む。</p> | <p>①利用者満足を得られる施設水準の実現と整備費用最適化に向け、有識者委員会を踏まえ、平成28年8月に「沖縄県大型MICE施設整備基本計画」を策定した。</p> <p>②大型MICE施設周辺のゾーニング計画案である「MICEエリアまちづくりビジョン」を策定し、庁内関係部局で構成する「大型MICE受入環境整備推進会議」、県及び地元町村等で構成する「大型MICEエリア振興に関する協議会」を設立し、大型MICE施設の受入環境整備に係る協働体制を構築した。</p> <p>③MICE関連人材の育成や、MICEの誘致戦略を盛り込んだ「沖縄MICE振興戦略(案)」を作成した。</p> |

(4) 成果指標の達成状況

| 成果指標 | 基準値 | 現状値 | H28目標値 | 改善幅 | 全国の現状 |
|------------------------|--------------------------|---------------------------|--------------------------|-----------------|-------|
| 国際的なMICEの開催件数・参加者数(累計) | 38件 16,759人 (23年度) | 194件 57,953人 (28年度) | 288件 58,759人 (28年) | 156件 41,194人 | — |
| 参考データ | 沖縄県の現状・推移 | | | 傾向 | 全国の現状 |
| — | — | — | — | — | — |

| | |
|------|---|
| 状況説明 | <p>開催件数及び参加者数は増加傾向にある。</p> <p>今後は、大型MICE施設の整備により、これまでの既存MICE施設の機能・規模不足により取り込めなかった国内外のMICE需要が取り込めるほか、今後10年のMICE振興の指針となる「沖縄MICE振興戦略(仮称)」を策定し、同戦略を推進するため産学官の関係団体で構成する「MICE戦略推進ネットワーク(仮称)」を設立するなど、全県的なMICE推進体制の構築と誘致・受入体制の強化を図ることでMICE開催等のさらなる充実が見込まれる。</p> |
|------|---|

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・建設地や施設の機能・規模等の決定の遅れにより、当初計画から遅れが生じている。
- ・地元自治体等の地域と一体となり、周辺エリアでの宿泊施設、商業施設の立地を促進させる必要がある。
- ・国内外のMICE需要を取り込む誘客戦略の策定、MICE関連人材の育成について早急に取り組む必要がある。

○外部環境の変化

- ・MICEの開催ニーズは年々多種多様化してきており、今後も変化を続けていくものと見込まれるが、主催者や参加者の観点から、MICE施設へのアクセシビリティについては、今後も変わらず利便性が求められる。
- ・震災復興事業やオリンピック需要等による建設需要の高まり、消費税増税による建設コストの増が予測される。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・大型MICE施設の安定的な運営(稼働率の向上)推進においては、MICEエリアとして利便性及び機能性の向上を図ることを目的として、交通アクセスの改善、宿泊施設・商業施設の誘致を図る必要がある。これらについて、引き続き、大型MICE施設の受入環境整備に係る協働体制の中で協議を重ねていく。

4 取組の改善案(Action)

- ・MICEエリア周辺に計画的に宿泊施設や商業施設が誘致できるよう、港湾計画、都市計画及び交通計画に係る関係部局や地元自治体と連携を図る。
- ・MICE関連人材の育成や、MICEの誘致戦略を盛り込んだ「沖縄MICE振興戦略(案)」を策定し、経済界・産業界、大学等研究機関、学会・協会等の各種団体、行政関係団体の連携体制を構築し、戦略的なMICE振興を図る。